

# 福 總 新 聞

(毎月十廿五日) 一回  
 定價 一月十錢 三月廿錢 半年五拾錢 一年九拾錢  
 廣告料 每行五錢 長期優待  
 發行所 福島縣平野町十四  
 市 島 館 三

……はリスク  
 一目丁五町平  
 ～局藥邊野山

## 助さん格さんの旅行特輯號

萩、桔梗の花は秋の晴麗さを代表して咲く、虫のいるは情味に富む音に秋諸々の風情を物語る。  
 赤蜻蛉は軽快な翼を張つてすゝき、尾花を友として飛交する。實に秋の眺事こそは吾れに取つて一番純粋な時である。

に話に飾らないことが嬉れしいのと、いつ訪問しても僅かの休暇時間を利用して子女等のためにたゞとへ太根一本でも甘く食べさせてやらう、亦主婦として將來處世する上に稼ぐ事に留意せよと。雲籠を垂れてゐることを見受ける、實教育を見る毎に同様に學び子女等こそは將來に恵まれ得る幸福者であると思ふ感じが湧き起るのである、今日は先生の郷里から鮭が一、二本届いたので皆さんに一片づつでも分けて味覺の快を得るのだと聞けた、一事が即ち萬事である。謂成哉今ふ百數十名の良子女を教養するに、氣分は日を追ふて進みつゝあるではないか、將來同様の眞美精は必し縫女學校に横山校長を訪ふか、校長先生が而かもホロ／＼の百姓姿の弊服へ農作仕事着のまゝ飾りのない姿で快話に出迎してくれた。先生はいつ會つても感じの良い校長先生であるだけ追従を許さぬ優秀なもので

ある由である。  
 小學校に大木校長を訪ふた。小學校の校長として實録の人物來校場の資格十二十分のたぬ一寸の時間で別れた。事務が忙しかつた。反對に頗る許したなれば先生の蘊蓄の四角弾つた秘書君軍隊式の動作で市長室に案内する。大都市の市長サンアンマリ來客が山ほどあるので一時間計り待たねば會はれぬと云ふ己れ等は短時日の東北巡回であるから一時間も二時間も合意の待ち合はせざるを得ない。今度お正月の餅でも祝ふンペリした時に合ふべく助格の話は纏つて此所を出る。石遊佐専務を訪ふ、心よく引見してくれられた年月未だ深からねど業務の堅實の同氏の手腕によつて異狀の發展を見た同會社の繁榮振りが、是れは實に目まぐるしい程であつた、氏は非常に忙し時間少の少を割いて業務上へてくれた、言葉少なくして事多く一言一句立派な話をされた、斯る人が在つてこそ今日の盛運を見る謂哉と二人は同氏の人となりに敬意を拂つて此所を出る。

は「誰アガハラ申さぬチャであるだけに繁華な場だ都を食ふ家や物色する、なるそれから小口組、東部電力」べく安い所と思つてメシ屋會社へ敬意を表し郡山商業の看板を見てある、郵便銀行で清水氏の敏顔を久ら導の碑立てられぬ伊達家今日の見た仙台は別のよぶに酒一本廿錢支那そば十錢の組合長代理らしい極めもの至つて人柄のよい商業其の夜は格さんと相談してなど十錢均一的に書き並べて温好な人と市場の話などに繁榮な町である。四五年安宿を見付けて泊ることへた店があつた精々二人で三十分計りを費すその頃電前に泊つたことのある宮城にして物色の結果イッキ三才もあれば一と思つて燈が付く我れ等の道場廻り屋と云ふ正直な宿へ泊る以橋で二食付き金五十錢也とて這入る。這入ると中には是れで其の日の打切りと丸まげ結つた年頃二十四五して驛前の内山旅館へ一泊してくれるところが嬉れしかつて其所へ泊ることに極めて三化七の中年増と一人は片車は困難だつた乗客中立つ方足の少し短いがこれも居る人さへもあつたが鐵道配格の人が出て來て早速宿屋は旅行を初めてから白粉を塗つた同年位の女が道員らしいのが己れの鐵道會つて来て地方財界の話初めに耳にしたこととま己れ等を鼻の下の長い人だと言はぬが顔に獨りで腰などもよく教へてくれた。さかイナゴの天ぶらと漬物とも思つたのか盛んに色掛けを分捕つてゐたのが癢な風好な風影のよい人であつた宮城銀行支店に店長を訪ふアツサリした交際上わたといふ當の旅館へたづねるのメシよりも酒一本如何と來り腹も空いてるのでそのに農銀に白石頭取を訪問し哀顔を採應して一本だけ持たが重役會議で若松へ出張つてこいと注文すると七不在のことに荒川電氣にりとはかりに今度はお通しく同氏も出張不在足を廻らと來た、今度はその手は喰して民政本部に釘本幹事長はとばかり助さん遠慮もなを訪ふ、折よく在宅いつもくナがお通んだ漬物でもながら氣分の良い御高見を持つて來いと云ふ化さん聊一際拜に願及むで年來の知友三田縣議宅を訪ふ婦君がが面喰つて引込むでしまふ愛想よく出迎へてくれたがをふすと今度足は短い三田氏不在の事に直ちにのが變つて注文もしない徳辭去す、尙二三訪問したか利を一本運んで來た、そのつたが當日は全町舉つての祭りである稻荷神社のお祭りなので其の日はそれで訪問を打ち切り西屋旅館へ一泊するのだと思ふと酒の味まが止宿する家で座敷も立派で變んな風と思はれて金五錢十也を拂つて中飯も喰べだし待遇もよい翌日午前福島公立病院主事石部豊氏を訪へ其の足で宮城縣仙南

小野新町へ下車  
 平素徳風を慕ふ小野新町裁縫女學校に横山校長を訪ふか、校長先生が而かもホロ／＼の百姓姿の弊服へ農作仕事着のまゝ飾りのない姿で快話に出迎してくれた。先生はいつ會つても感じの良い校長先生であるだけ追従を許さぬ優秀なもので

郡山市 に向ふ  
 刻になつたので驛前内山館へ一泊、翌朝縣議福内和助氏を訪ねたが折悪しく不在のため風貌に接することが出来なかつた、久振りに郡山片倉製糸工場をたづねる。西牧君が出て來て應答しと二人は同氏の人となりに敬意を拂つて此所を出る。

白石町 へ行く  
 仙臺の城下へ乗り込む何にしる東北の第一の都

仙臺の城下へ乗り込  
 何にしる東北の第一の都

福島市 へ行く  
 宮城銀行支店に店長を訪ふアツサリした交際上わたといふ當の旅館へたづねるのメシよりも酒一本如何と來り腹も空いてるのでそのに農銀に白石頭取を訪問し哀顔を採應して一本だけ持たが重役會議で若松へ出張つてこいと注文すると七不在のことに荒川電氣にりとはかりに今度はお通しく同氏も出張不在足を廻らと來た、今度はその手は喰して民政本部に釘本幹事長はとばかり助さん遠慮もなを訪ふ、折よく在宅いつもくナがお通んだ漬物でもながら氣分の良い御高見を持つて來いと云ふ化さん聊一際拜に願及むで年來の知友三田縣議宅を訪ふ婦君がが面喰つて引込むでしまふ愛想よく出迎へてくれたがをふすと今度足は短い三田氏不在の事に直ちにのが變つて注文もしない徳辭去す、尙二三訪問したか利を一本運んで來た、そのつたが當日は全町舉つての祭りである稻荷神社のお祭りなので其の日はそれで訪問を打ち切り西屋旅館へ一泊するのだと思ふと酒の味まが止宿する家で座敷も立派で變んな風と思はれて金五錢十也を拂つて中飯も喰べだし待遇もよい翌日午前福島公立病院主事石部豊氏を訪へ其の足で宮城縣仙南

白石町 へ行く  
 仙臺の城下へ乗り込む何にしる東北の第一の都

仙臺の城下 へ行く  
 何にしる東北の第一の都

仙臺の城下 へ行く  
 何にしる東北の第一の都

白石町 へ行く  
 仙臺の城下へ乗り込む何にしる東北の第一の都

仙臺の城下 へ行く  
 何にしる東北の第一の都

白石町 へ行く  
 仙臺の城下へ乗り込む何にしる東北の第一の都

仙臺の城下 へ行く  
 何にしる東北の第一の都

白石町 へ行く  
 仙臺の城下へ乗り込む何にしる東北の第一の都

仙臺の城下 へ行く  
 何にしる東北の第一の都

は「誰アガハラ申さぬチャであるだけに繁華な場だ都を食ふ家や物色する、なるそれから小口組、東部電力」べく安い所と思つてメシ屋會社へ敬意を表し郡山商業の看板を見てある、郵便銀行で清水氏の敏顔を久ら導の碑立てられぬ伊達家今日の見た仙台は別のよぶに酒一本廿錢支那そば十錢の組合長代理らしい極めもの至つて人柄のよい商業其の夜は格さんと相談してなど十錢均一的に書き並べて温好な人と市場の話などに繁榮な町である。四五年安宿を見付けて泊ることへた店があつた精々二人で三十分計りを費すその頃電前に泊つたことのある宮城にして物色の結果イッキ三才もあれば一と思つて燈が付く我れ等の道場廻り屋と云ふ正直な宿へ泊る以橋で二食付き金五十錢也とて這入る。這入ると中には是れで其の日の打切りと丸まげ結つた年頃二十四五して驛前の内山旅館へ一泊してくれるところが嬉れしかつて其所へ泊ることに極めて三化七の中年増と一人は片車は困難だつた乗客中立つ方足の少し短いがこれも居る人さへもあつたが鐵道配格の人が出て來て早速宿屋は旅行を初めてから白粉を塗つた同年位の女が道員らしいのが己れの鐵道會つて来て地方財界の話初めに耳にしたこととま己れ等を鼻の下の長い人だと言はぬが顔に獨りで腰などもよく教へてくれた。さかイナゴの天ぶらと漬物とも思つたのか盛んに色掛けを分捕つてゐたのが癢な風好な風影のよい人であつた宮城銀行支店に店長を訪ふアツサリした交際上わたといふ當の旅館へたづねるのメシよりも酒一本如何と來り腹も空いてるのでそのに農銀に白石頭取を訪問し哀顔を採應して一本だけ持たが重役會議で若松へ出張つてこいと注文すると七不在のことに荒川電氣にりとはかりに今度はお通しく同氏も出張不在足を廻らと來た、今度はその手は喰して民政本部に釘本幹事長はとばかり助さん遠慮もなを訪ふ、折よく在宅いつもくナがお通んだ漬物でもながら氣分の良い御高見を持つて來いと云ふ化さん聊一際拜に願及むで年來の知友三田縣議宅を訪ふ婦君がが面喰つて引込むでしまふ愛想よく出迎へてくれたがをふすと今度足は短い三田氏不在の事に直ちにのが變つて注文もしない徳辭去す、尙二三訪問したか利を一本運んで來た、そのつたが當日は全町舉つての祭りである稻荷神社のお祭りなので其の日はそれで訪問を打ち切り西屋旅館へ一泊するのだと思ふと酒の味まが止宿する家で座敷も立派で變んな風と思はれて金五錢十也を拂つて中飯も喰べだし待遇もよい翌日午前福島公立病院主事石部豊氏を訪へ其の足で宮城縣仙南

(以下二面へ續く)

